

# 福島原発事故収束に向けたバックエンド領域の取り組み

(実践編)

## 有志グループの取り組み (JAEA 山岸功)

### 講演者略歴

(ふりがな) 氏名	(やまぎし いさお) 山岸 功	出身都 道府県	東京都
所属	日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究部門 湿式分離分離プロセス化学研究グループ 副主任研究員		
専門分野	原子力化学工学		
学位	東北大学 工学博士「放射性廃液からの長寿命核種の吸着分離に関する研究」(2003)		
主な所属学会	日本原子力学会、日本イオン交換学会		
主な外部兼職・委員	日本原子力学会「核燃料サイクルの物質・放射線利用」研究専門委員会委員		
略歴	1987年 東北大学工学研究科原子核工学専攻修士課程修了、「混合ゼオライトによる高汚染水処理の研究」。 1988年 旧日本原子力研究所入所、群分離研究室配属。 1996年 仏 CEA マルクール研究所派遣、Am 電解酸化研究に従事。 1999年 副主任研究員。 2004年 経済協力開発機構 原子力機関 (OECD/NEA) 派遣。 2008年- 現職		

<p>これまでの研究・業務概要</p>	<p>高レベル放射性廃棄物の湿式分離プロセスの研究開発に一貫して従事。</p> <p>1988-1999年には、旧原研で開発していた再処理廃液の4群・群分離プロセス（超ウラン元素群、Tc-白金族元素群、Cs-Sr 発熱性元素群、その他の元素群の分離）の要素技術開発として、</p> <p>1)アンチモン酸チタン系無機イオン交換体によるIII価アクチノイドとランタノイドの分離 2)活性炭による Tc-白金族元素群の吸着分離 3)ゼオライト及びチタン酸交換体による Cs-Sr の分離・固定化研究に従事。また、4群・群分離プロセス実証試験の機器設計、群分離二次廃棄物処理法の開発、廃棄物資源化研究としての Tc 核反応断面積の測定等に従事。</p> <p>1999-2003年には、使用済燃料溶解液を対象とした分離プロセスにおける効率的な Cs-Sr の吸着分離法の開発、プロセス評価を担当。</p> <p>2004-2008年には、OECD/NEA 原子力科学委員会事務局として原子力科学プロジェクトのマネジメントに従事。</p> <p>2008年以降、再処理廃液の高度分離技術開発、発熱 FP 固化研究、ガラス固化技術研究に従事。</p>
<p>福島第一原子力発電所事故関係研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三村均, 山岸功, 日本化学会誌, 621-628 (1989) "ゼオライトによる放射性セシウムとストロンチウムの除去"</li> <li>・山岸功, JAERI-Review 2001-027 (2001), "無機イオン交換体を用いた酸性媒体からの Sr 及び Cs の分離と固定化 (文献調査)"、他</li> </ul>